

平成 30 年告示高等学校学習指導要領に対応した
令和 7 年度大学入学共通テストからの出題教科・科目

地理総合

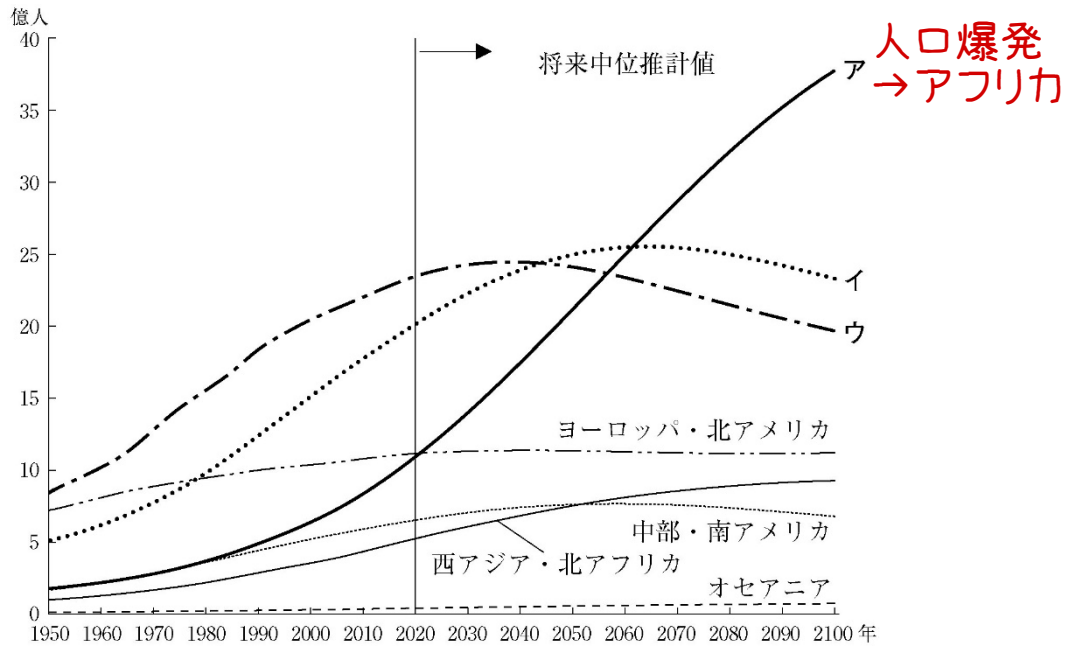
サンプル問題

作成の趣旨

- 本サンプル問題は、平成 30 年告示高等学校学習指導要領に対応して、令和 7 年度大学入学共通テストから新たに試験科目として設定することを検討している『地理総合，地理探究』及び『地理総合，歴史総合，公共』のうち、「地理総合」に関する試験問題（一部、「地理探究」に関する試験問題を含む）について、具体的なイメージを共有するために作成・公表するものです。今後、大学入学者選抜としての適切な出題について引き続き検討することとしています。
- 本サンプル問題は、平成 30 年に改訂された高等学校学習指導要領「地理総合」等に基づいて作成したものです。
- 本サンプル問題は、具体的なイメージの共有のために作成したものであるため、以下の点に十分御留意いただきますようお願いします。
 - ・「地理総合」等の内容のうちの一部を出題範囲として作成したものであり、「地理総合」等の全ての内容を網羅しているものではありません。
 - ・「地理総合」等の教科書の検定中に作成した問題であるため、本サンプル問題は教科書と照合したものではありません。
 - ・『地理総合，地理探究』及び『地理総合，歴史総合，公共』の問題構成は未確定であり、今後、検討されるものであるため、本サンプル問題の構成は、実際の問題セットをイメージしたものではありません。
 - ・本サンプル問題は専門家により作成されたものですが、過去のセンター試験や大学入学共通テストと同様の問題作成や点検のプロセスを経たものではなく、また、実際の問題セットをイメージしたものや試験時間を考慮したものでもありません。令和 7 年度大学入学共通テストから『地理総合，地理探究』及び『地理総合，歴史総合，公共』が出題される際には、適切な分量と難易度のもとで問題セットが作成されることとなります。
 - ・サンプル問題であるため、A 4 版で作成しています。

第1問 高校生のカオルさんのクラスでは、いくつかの資料をもとに、世界の人口に関する問題について考えていくことになった。この学習に関する下の問い（問1～3）に答えよ。

問1 カオルさんたちは、まず世界の人口推移を地域別に調べることにした。次の図1中のア～ウは、サハラ以南アフリカ（サブサハラ・アフリカ）、東・東南アジア、南・中央アジアのいずれかである。地域名とア～ウとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。



World Population Prospects により作成。

図1 地域別の人口推移（推計値）

	①	②	③	④	⑤	⑥
サハラ以南アフリカ	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
東・東南アジア	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
南・中央アジア	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

中国

↓
インドを含む

地理Aは特徴的な2項目で判断する。

問2 次にカオルさんは、人口の推移はどのようなことがらと関係しているかを考えるために、世界の人口上位8か国についていくつかの統計をまとめて表1を作成し、それに関連することがらを含めイズミさんと話し合った。次ページの会話文中の下線部①～④のうちから、最も適当なものを一つ選べ。

表 1

国名	合計 特殊 出生率	成人 (15歳以上) 識字率 (%)		労働力率* (%)		5歳 未満児 死亡率 (‰)
		女性	男性	女性	男性	
中国	1.7	95.2	98.5	61.1	75.7	8.6
インド	2.2	65.8	82.4	20.7	76.2	36.6
アメリカ合衆国	1.7	-	-	56.4	68.5	6.5
インドネシア	2.3	94.0	97.3	53.0	82.0	25.0
パキスタン	3.5	46.5	71.1	21.7	81.8	69.3
ブラジル	1.7	93.4	93.0	54.4	74.3	14.4
ナイジェリア	5.4	52.7	71.3	48.2	58.0	119.9
バングラデシュ	2.0	71.2	76.7	36.1	81.5	30.2

*労働年齢人口に対する労働力人口の割合。労働力人口は労働年齢（基本的には15歳以上であるが、国の法律や慣習によって若干異なる場合がある）の就業者と失業者の合計。

統計年次は2018年。『世界国勢図会』により作成。

カオル 「人口の推移にはどんなことが関連しているのかな。」

イズミ 「①合計特殊出生率が高い国は、成人識字率が男性よりも女性のほうが高いと
いえそうだね。」

カオル 「②合計特殊出生率が高い国ほど、女性の労働力率が高い傾向がみられるわ。」

イズミ 「③労働力率に男女差が生じる背景には、伝統的な生活様式も関係するの
かな。」

カオル 「④5歳未満児死亡率は、女性が家庭で育児に専念することによって低下させ
ることができるみたいだね。」

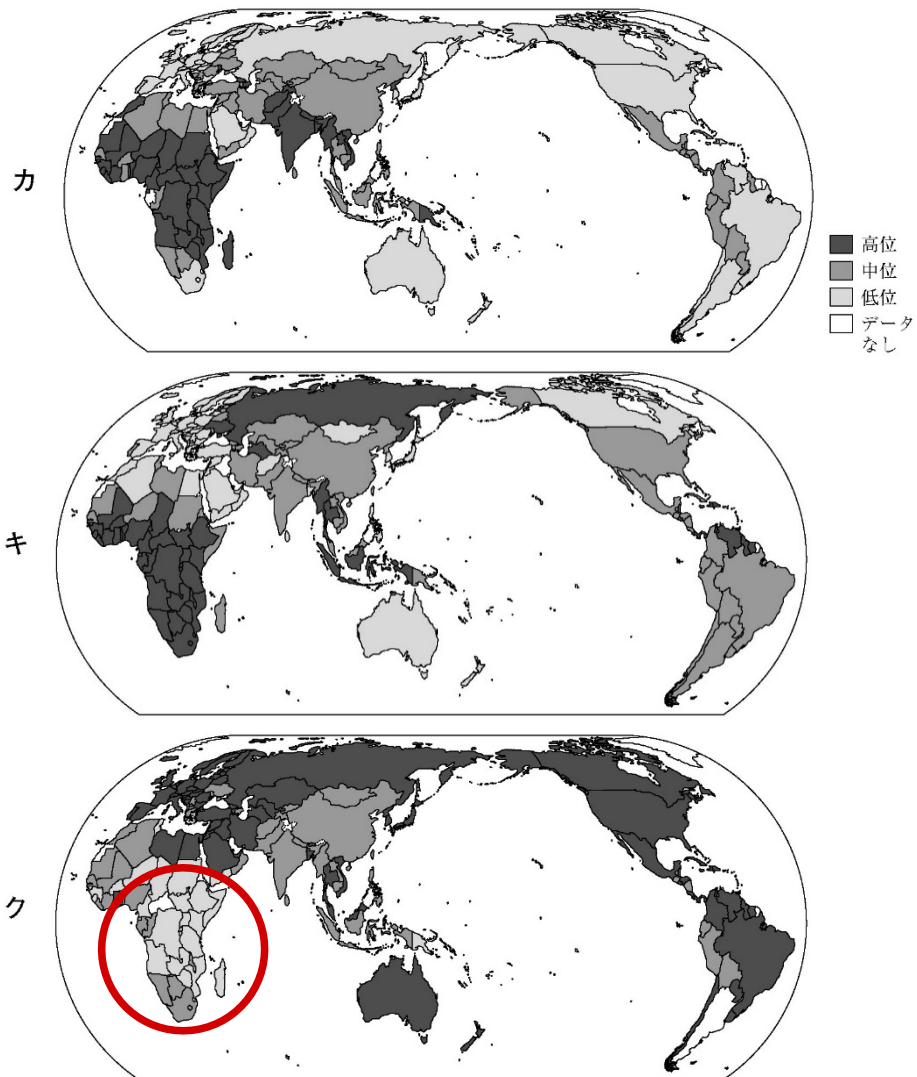
イズミ 「合計特殊出生率が低い国は、5歳未満児死亡率も低い傾向がみられるね。」

カオル 「5歳未満児の死亡率が低下すれば、出生率の低下につながるのではないか
な。」

問3 5歳未満児死亡率を下げるための解決策を話し合ったカオルさんたちは、次の解
決策X～Zを考えた。また、解決策の必要性を示す根拠となる資料として、安全な
飲用水源の設備割合、HIV／エイズによる死亡率、農林水産業人口割合について、
国・地域別に示した次ページの主題図カ～クを作成した。5歳未満児死亡率を下げ
るための解決策と、その根拠を直接示した主題図との組合せとして最も適切なもの
を、次ページの①～⑨のうちから一つ選べ。

【解決策】

- X 下痢などをともなう^{しっぺい}疾病を防ぐための衛生的な設備の充実を図る。
- Y 専門家立ち会いのもとでの出産を増やすための医療体制の充実を図る。
- Z 母子の栄養状態を改善するための食料生産の充実を図る。



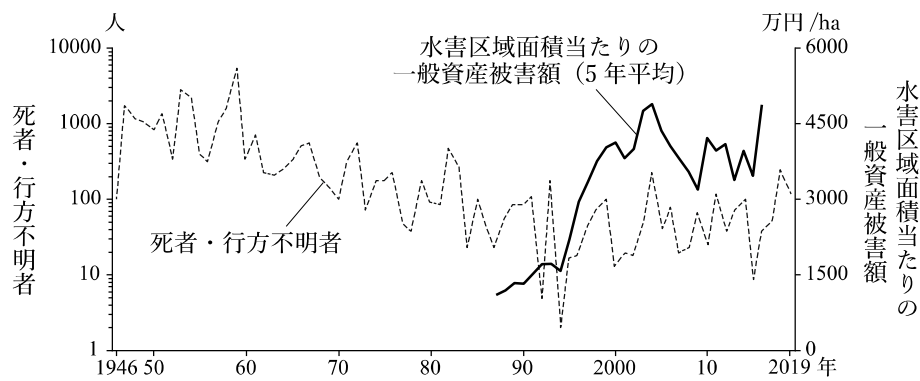
統計年次は、安全な飲用水源の設備割合が2017年、HIV／エイズによる死亡率が2019年、農林水産業人口割合が2018年。WHOの資料などにより作成。

図 2

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
解決策	X	X	X	Y	Y	Y	Z	Z	Z
主題図	カ	キ	ク	カ	キ	ク	カ	キ	ク

第2問 高校生のナツさんは、授業と課外活動を通じて、自然災害に対する備えと復興のあり方についての防災学習をすすめた。この防災学習に関する下の問い（問1～3）に答えよ。

問1 日本では毎年のように水害が発生していることを授業で学んだナツさんたちは、過去から現在までの水害の状況について調べ学習を行い、インターネットで閲覧した資料の中にあつた次の図1について話し合った。次ページの会話文中の空欄アとイに当てはまる文の組合せとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。



一般資産は、農作物を除いた、建物、家庭用品、事業所資産などを指す。水害区域面積当たりの一般資産被害額は1987年以降を示した。『水害統計』により作成。

図1 日本における水害による死者・行方不明者数と水害区域面積当たりの一般資産被害額の推移

- ナ ツ 「1950年代までは、死者・行方不明者数が1000人を超えるような大変な水害が起きていたんだね。」
- ハ ナ 「1960年以降は、死者・行方不明者数が徐々に減少する傾向にあるのはどうしてかな？」
- ケ イ 「(ア) ためだと思うよ。」
- チ カ 「グラフには水害区域面積当たりの一般資産被害額もあるね。」
- ケ イ 「1990年代以降は、死者・行方不明者数がほとんど増えていないのに、水害区域面積当たりの一般資産被害額が増えたのはどうしてかな？」
- ハ ナ 「(イ) ことが主な理由だと資料には書いてあったね。」

空欄ア

- A 台風や大雨など水害を発生させる自然現象の頻度が低下した
- B 堤防などの水害を防ぐインフラストラクチャーの整備がすすんだ

空欄イ

- C 水害の規模が大きくなり、水害区域面積が増加した
- D 都市化が進展して、浸水する危険性の高い場所に建物や住宅が増加した

	①	②	③	<input checked="" type="radio"/> ④
空欄ア	A	A	B	B
空欄イ	C	D	C	D

問2 次の会話文は、課外活動として、水害が起こったときの避難についてナツさんが家族と話し合ったものである。家族との会話の内容に加えて、下の表1の状況が想定される場合、ナツさんが会話文中の下線カと判断した理由として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

ナツ 「家のすぐ近くに川が流れているから洪水が起きそうで怖いね。あの川が氾濫したらどこに避難すればいいのかな？」

祖父 「昔に比べて住んでいる人が増えたから、たくさんの人が集まれる近くのグラウンドに避難するのはどうだろうか？」

母 「あそこは遊水地だよ。川との間の堤防は低くなっているし、グラウンドの入口には『大雨時には立入禁止』って看板があったよ。」

妹 「あっ、避難場所がハザードマップに描いてある。川の向こう側にある小学校が避難場所だから、そこに避難すればいいね。」

ナツ 「状況によっては、カ私たちが暮らすマンションの2階以上に避難する場合もありそうだね。」

表1 想定される自然災害時の状況

想定する項目	状況等の説明
自然災害の状況	大雨特別警報が発令されている
住んでいる家の場所	洪水ハザードマップの浸水予想範囲に含まれる
住んでいる家の構造	鉄筋コンクリート造のマンション
自分や家族の状態	高齢の家族（祖父）がいる

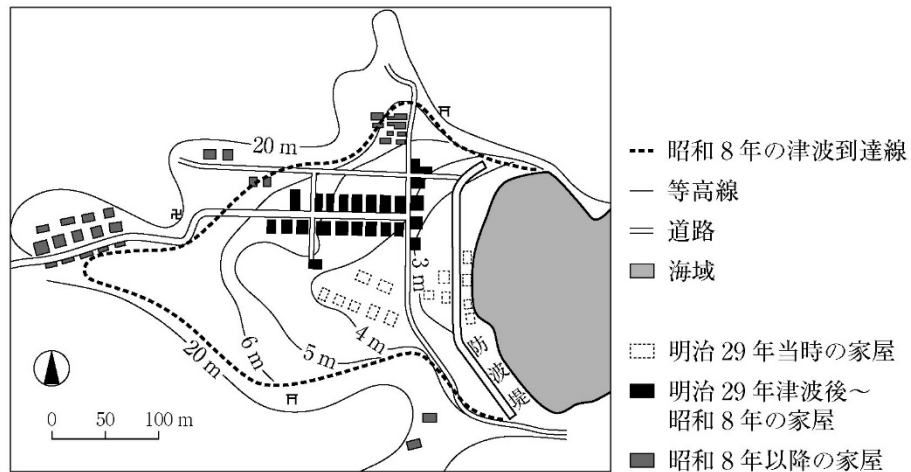
① 家の周辺は浸水しておらず、近所の人には避難していない様子である。

② 同じ土地に生まれ育った父や祖父が洪水を経験していない。

③ 近くを流れる河川にはコンクリートで護岸された堤防がある。

④ 避難場所まで遠く、また避難経路がすでに浸水している可能性がある

問3 ナツさんは、被災地では自然災害の再来に備えた復興が重要であることを授業で学んだ。次の図2は、ある地域の復興の様子を示したものである。図2に関連することからについて述べた下の文章中の下線部サ～スの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。



山口彌一郎『津浪と村』により作成。

図 2

この集落では、明治29年の津波で被害を受けた後、防波堤を築くだけでなく、サ集落を標高の高い場所へと移動させたことで、昭和8年の津波では被害を受けなかった。こうした居住地の高台移転は、津波対策としてシ東日本大震災で津波の被害を受けた地域の復興でも実施されている。高台移転は、津波の被害から逃れられるメリットがある一方で、ス職住分離がすすんで漁業従事者の負担が増加するなどのデメリットがある。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
サ	正	正	正	正	誤	誤	誤	誤
シ	正	正	誤	誤	正	正	誤	誤
ス	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤

第3問 高校の地理部員のマサミさんたちは、「平成の大合併」による地域の変容をテーマとした地域調査を行った。この地域調査に関する次の問い(問1～6)に答えよ。

問1 マサミさんたちは、次ページの図1と図2をもとに地域調査の計画を話し合った。マサミさんたちの次の会話文中の下線部①～④のうちから、誤りを含むものを一つ選べ。

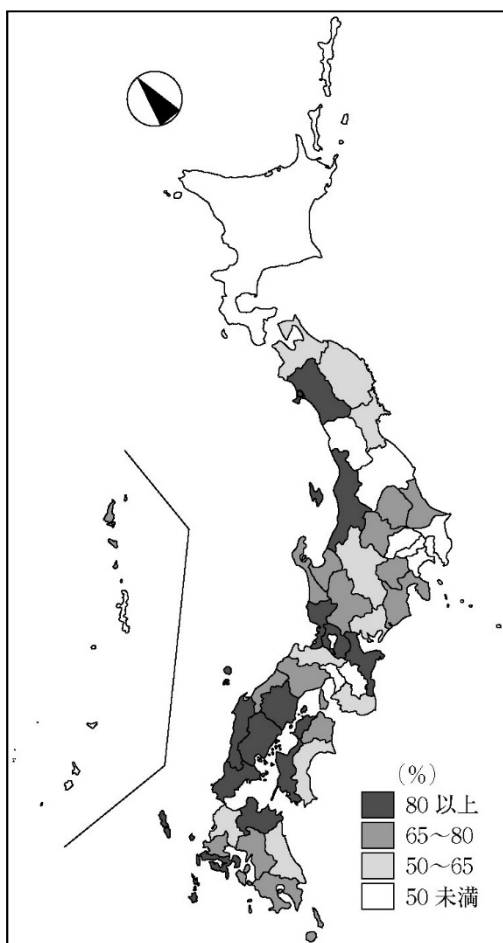
マサミ 「平成の大合併は、2000年から2010年ころにかけて全国的に進められた町村合併ということなので、それに関係しそうな図1と図2を手に入れたよ。図1を見ると、市町村合併率が80%以上の都道府県は、東北地方から九州地方まで広くみられるけど、①関東地方にはみられないね。」

レイ 「図2からは、②人口増加率が0%以上の都道府県は三大都市圏以外にもあるけど、東北地方にはないことが分かるよ。」 **東京・名古屋・京阪神**

ノゾミ 「次に、二つの図を見比べてみようよ。図1と図2から、③市町村合併率が50%未満である都道府県は人口が減少していないということが分かるよ。また、④中国・四国地方は、どの県も人口が減少していて、市町村合併率は50%以上になっているよ。」

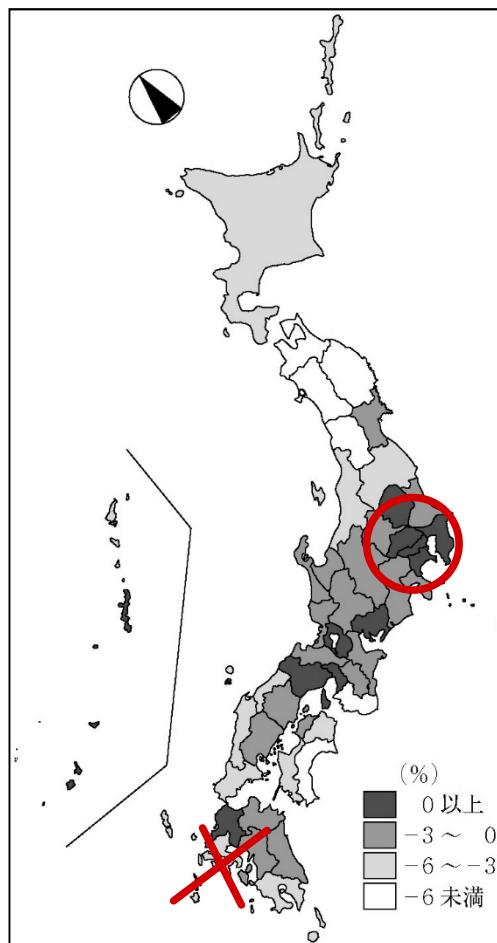
レイ 「市町村合併と人口増減は確かに関係があるかもしれないね。でも、都道府県スケールの分布図だけでは分からないこともありそうだね。」

マサミ 「だったら、平成の大合併が、人口増減などの地域の課題とどう関連しているのかを調べてみようよ。全国で最も多くの市町村が合併した事例が新潟県上越市らしいから、そこでの地域調査を通して、平成の大合併による地域の^{じょうつ}変容というテーマに迫ってみよう。」



森川洋(2015)『「平成の大合併」研究』により作成。

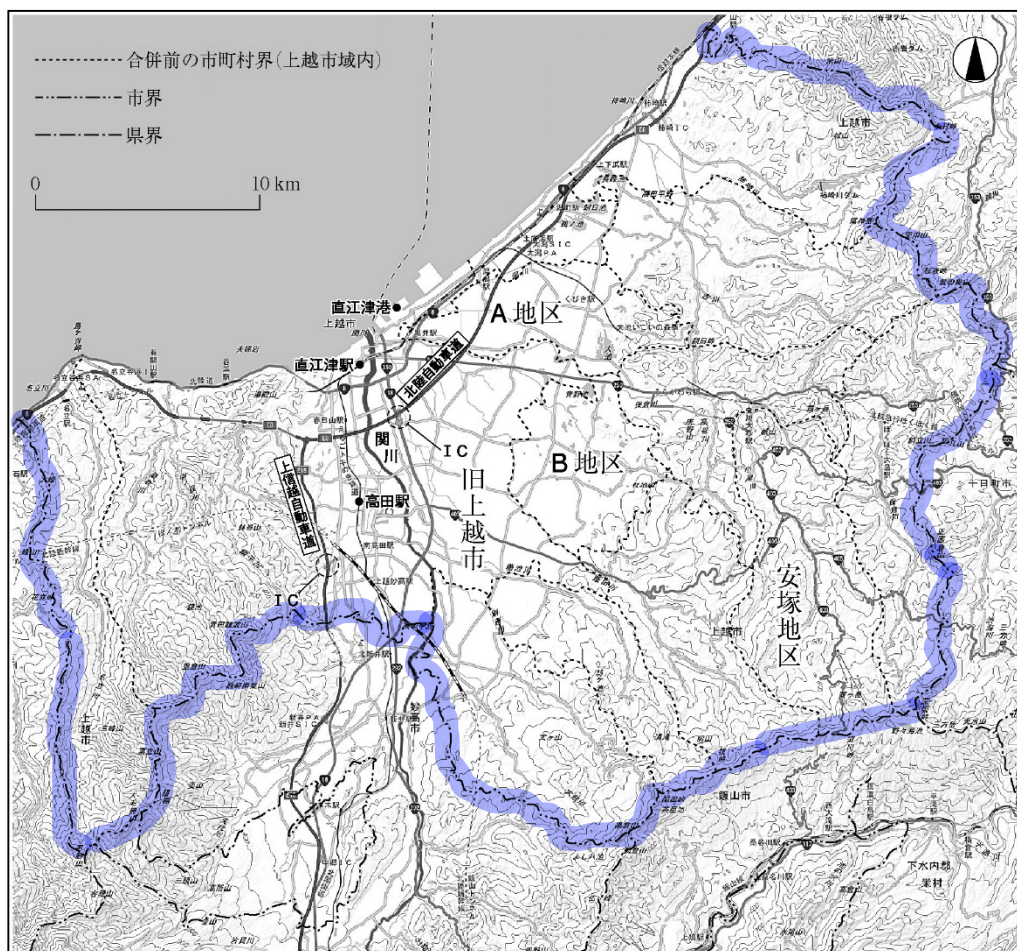
図1 都道府県別の市町村合併率
(2000年～2010年)



国勢調査により作成。

図2 都道府県別の人口増加率
(2000年～2010年)

問2 マサミさんたちは、現地調査に先立ち、インターネットを利用して合併後の上越市について調べ、GISを用いて図3を作成し、この地域の概要を次ページのレポートにまとめた。レポート中の下線部a～cの正誤の組合せとして正しいものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。



現在の上越市を表す地理院地図に、平成の大合併前の市町村界を加えた。旧上越市とは、平成の大合併前の上越市。

図 3

おじさんには見にくいです！

【レポート】

上越市は、新潟県の南西部に位置し、2005年に周辺13町村と合併した。合併後の市域は、東西、南北方向ともに最大で約45kmに及び、面積974km²は、東京都23区全体の面積(628km²)よりも広い。合併した13町村は旧上越市を取り囲む丘陵や山地にも位置していたことから、上越市は a 他県と境界を接することになった。

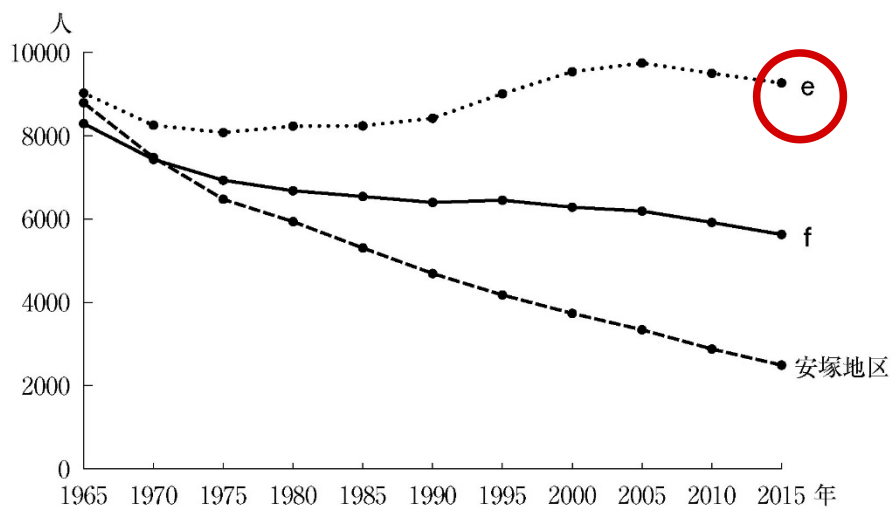
地形を見ると、市の中央部を北へ流れる^{せきかわ}関川の中下流部に沿って平野がひろがっているが、b 現在の市域はすべて関川の流域にある。関川河口から北東にのびる海岸には砂丘が続いている。

上越市は、古くから交通の要衝として栄えた。以前からの中心地は、^{たかだ}高田駅や^{なおえつ}直江津駅周辺であるが、日本海に沿った北陸自動車道と、市域を南北方向に貫いた上信越自動車道との結節点としても新たに交通の要衝となり、図3中に○で示された2か所のIC(インターチェンジ)のうち、c 関川右岸につくられた上信越自動車道のIC周辺には、現在は大規模な商業施設が多数立地している。

2015年における上越市の人口は196,987人である。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
a	正	正	正	正	誤	誤	誤	誤
b	正	正	誤	誤	正	正	誤	誤
c	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤

問3 現地で市役所を訪問したマサミさんたちは、合併した市町村ごとに多様な実態があることを知り、図3中の安塚地区、A地区、B地区の3地区を取り上げ、その人口推移、年齢別人口構成、景観を比較することにした。次の図4中のeとf、表1中のアとイ、および次ページの写真1中のjとkは、A地区とB地区のいずれかである。A地区に該当する記号の正しい組合せを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。



上越市の資料などにより作成。

図4 安塚地区、A地区、B地区の地区別の人口推移

表1 安塚地区、A地区、B地区の地区別の年齢別人口構成

(単位：%)

	年少人口 (14歳以下)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)
安塚地区	7.4	45.7	46.9
ア	13.2	55.3	31.5
イ	13.3	59.7	27.0

統計年次は2015年。上越市の資料などにより作成。



棚田や森林が広がるなかに、小さな集落が点在する。

安塚地区



農地とともに産業団地がみられるなかに、住宅が隣接して立ち並ぶ。

j



区画の広い水田地帯のなかに、戸建ての住宅が主要道路沿いに建つ。

k

写真1 安塚地区，A地区，B地区で撮影された特徴的な景観とその解説

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
図 4	e	e	e	e	f	f	f	f
表 1	ア	ア	イ	イ	ア	ア	イ	イ
写真1	j	k	j	k	j	k	j	k

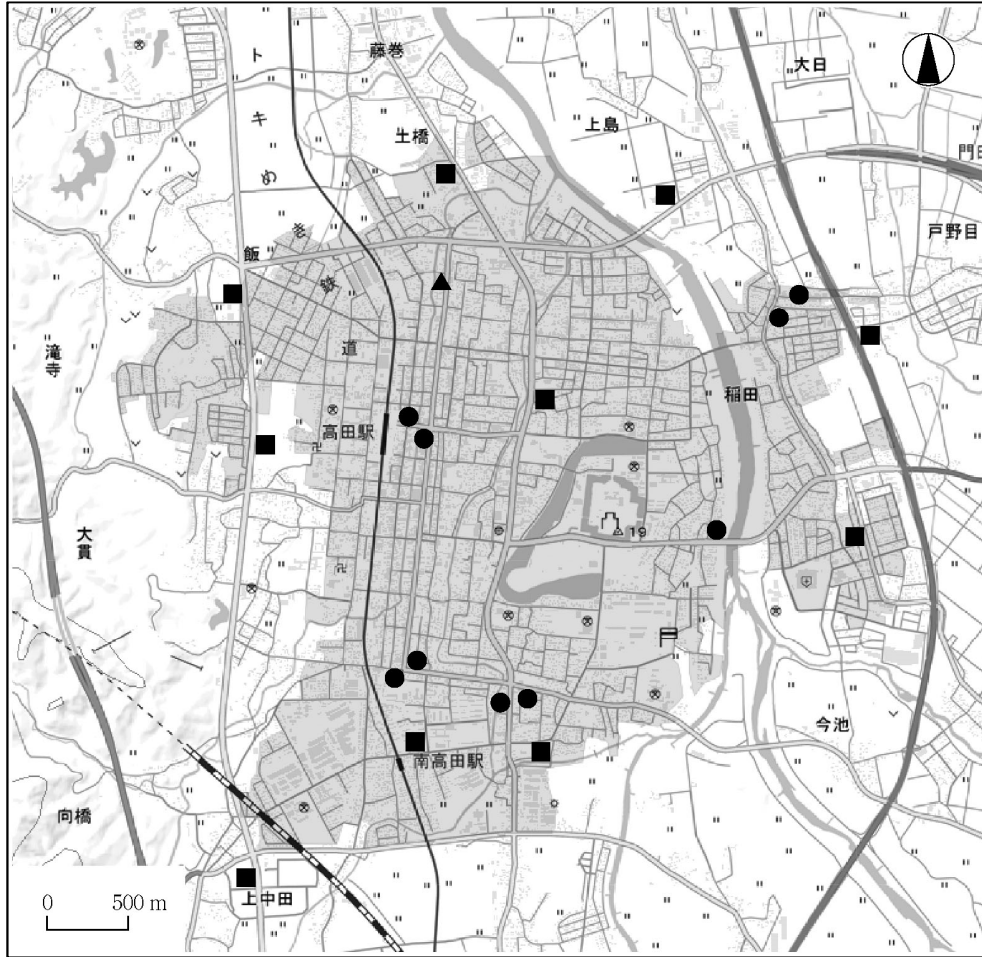
問4 合併した市町村ごとに異なる課題があるのではないかと考えたマサミさんたちは、中心市街地である高田駅周辺の聞き取り調査を行い、聞き取ったことを次のメモに記した。そこで、「商業施設の立地変化によって買い物弱者の問題が起きているのではないか」と考え、スーパーマーケット店舗の立地変化について現地の図書館の資料を使って調べ、下の表2に示した分類に従い、次ページの図5を作成した。図5中の●、▲、■と表2中のカ～クとの正しい組合せを、次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

【メモ：住民の方から聞いた話】

私は、1970年代後半から高田駅前に住んでいます。住み始めたころは、市街地が拡大するとともに、駅前からつながる中心商店街にはデパートをはじめ様々な施設がたくさんあって、生活にとっても便利でした。しかし、現在は商店街には閉店した店が目立ちます。70歳を超えて1人暮らしをしている私は、買い物をするのにとても苦労しています。

表2 高田駅周辺に立地していたスーパーマーケット店舗の時期別の営業状況

	1979年	2020年
カ	営業あり	営業なし
キ	営業あり	営業あり
ク	営業なし	営業あり



網がけは2015年のDID（人口集中地区）。2020年の地理院地図などにより作成。

図5 高田駅周辺におけるスーパーマーケット店舗の立地

	①	②	③	④	⑤	⑥
●	カ	カ	キ	キ	ク	ク
▲	キ	ク	カ	ク	カ	キ
■	ク	キ	ク	カ	キ	カ

地理Aは特徴的な2項目で判断する。

問5 マサミさんたちは、合併した安塚地区では、中心市街地とは異なる課題があるのではないかと考えて現地調査を行い、問題の把握とともにその解決策について話し合った。次の会話文中の空欄サとシに当てはまる語句の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

マサミ 「人口が減少している安塚地区では、商業施設だけではなく、生活にかかわる様々な施設が減少しているようだね。」

レイ 「確かにそのようだよ。町役場や警察署のような公的機関の立地変化も、(サ) の比較から読み取れたからね。」

ノゾミ 「安塚地区では、買い物に限らず、医療機関など地区外にある様々な施設を利用しにくくなっていることが問題になっていたけど、何か良い解決策はないかな。」

マサミ 「これまで調べて分かった安塚地区の実態を踏まえると、解決策としては(シ) を支援することが有効だろうね。」

ノゾミ 「このような課題は、安塚地区や上越市の他の地区だけでなく、全国各地にもあるはずだよ。平成の大合併によって全国の市町村では、どんな影響があったのか、学校に帰ったらもっと調べてみようよ。」

m : 新旧の国勢調査

p : 地区外への生産年齢層の移住

n : 新旧の地形図

q : 乗合タクシーなどの交通手段の確保

	①	②	③	④
サ	m	m	n	n
シ	p	q	p	q

問6 学校に帰ったマサミさんたちは、全国で行われた平成の大合併の成果と課題について探究を進め、次の表3と表4に整理した。表3中のr～tの具体的事例としては表4中のタ～ツのいずれかが、表3中のu～wの具体的事例としては表4中のマ～ミのいずれかが、それぞれ一つずつ当てはまる。tとuに当てはまる具体的事例の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。

表3 平成の大合併の成果と課題の類型

成 果	課 題
r 広域的観点に立ったインフラストラクチャーの整備	u 周辺に位置する旧市町村地区の経済活動の停滞
s 自治体規模の拡大による行財政の基盤強化	v 住民の自治体運営へのかかわりの希薄化
t 地域の知名度・イメージの向上	w 身近な地域における住民サービスの低下

表4 平成の大合併の成果と課題の具体的事例

成 果	<p>タ 旧行政界を越えた効率的な上下水道の整備が進んだ。</p> <p>チ 少子高齢化対策に特化した専門的な職員を配置した。</p> <p>ツ 特産品に共通の名称を付けて出荷することになった。</p>
課 題	<p>マ 旧市町村単位の選挙区がなくなり、議員の定数が変わった。</p> <p>ミ 旧市町村役場が閉鎖され、そこからの雇用や業務委託がなくなった。</p> <p>ム 公共施設が統合され、利用するための移動距離・時間が増えた。</p>

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
t	タ	タ	タ	チ	チ	チ	ツ	ツ	ツ
u	マ	ミ	ム	マ	ミ	ム	マ	ミ	ム

地理総合サンプル問題 正解表

問 題 番 号	設 問	正 解
第 1 問	問 1	2
	問 2	3
	問 3	3
第 2 問	問 1	4
	問 2	4
	問 3	5
第 3 問	問 1	3
	問 2	4
	問 3	3
	問 4	1
	問 5	4
	問 6	8